

福山ネウボラ5年間の取組について 2017→2021

1 5年間の主な取組

本市では福山ネウボラを2017年度に創設し、母子保健と子育て支援を一体的に提供する体制を整備するとともに、妊娠、出産期から子育て期までの切れ目ない支援に取り組んできました。
ネウボラ創設から5年の取組を検証し、次期ネウボラ事業計画の策定につなげていきます。

妊娠・出産から子育て期まで、切れ目なく支援できる体制の構築

支援が必要な家庭への対応強化

支援区分	2017～2020	2021	2022
①相談機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> 相談窓口「あのね」開設(市内12か所) ※2019年度13か所に拡充 「あのね」を核とし、母子保健と子育て支援を一体的に提供する体制を整備 全ての「あのね」で母子健康手帳を交付 ネウボラ相談システム構築(情報の一元化) 子育て応援プレゼントの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ファイナンシャルプランナー相談 オンライン相談 	<p>相談の専門性強化(ことばの相談との一体化)</p>
②妊娠・出産期の支援	<ul style="list-style-type: none"> 不妊治療費の助成 不育症治療費の助成 産後ケア事業、産前・産後サポート事業 新生児聴覚検査費の助成 	<ul style="list-style-type: none"> 産婦健康診査 	
③子育て期の支援	<ul style="list-style-type: none"> 子ども医療費助成の拡充 保育人材確保の強化 放課後児童クラブ受入拡充(小学6年まで) 富谷ドームランド美装化 エフピコアリーナ大型遊具設置 子育てパパ活躍ウィーク開始 県やハローワークと連携した就労・再就職支援 出生児特別定額給付金の支給 	<ul style="list-style-type: none"> えほんの国リニューアル 「あのねキッズコム」を商業施設へ移転 スマート保育の導入 出産育児特別応援金の支給 	<ul style="list-style-type: none"> ミニえほんの国スタート 子育てママ応援スクール 休日保育等のWEB予約 医療的ケア児 保育施設での受入れ 兄弟姉妹同一施設入所の促進
④支援が必要な家庭への対応	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの見守り支援 ひとり親家庭等学習支援事業 ひとり親家庭緊急応援金の支給 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども家庭総合支援拠点設置) 子ども健全育成支援事業、児童見守り支援事業を事務移管 ひとり親夜間休日電話相談、養育費相談開始 	<ul style="list-style-type: none"> 児相との情報共有システム開発 子育て支援通訳ボランティアスタート 離婚前後の親支援講座実施

2-1 取組の成果と課題

妊娠，出産から子育て期まで切れ目なく支援できる体制の構築

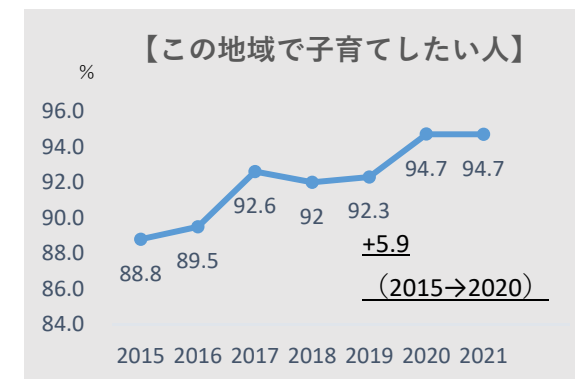
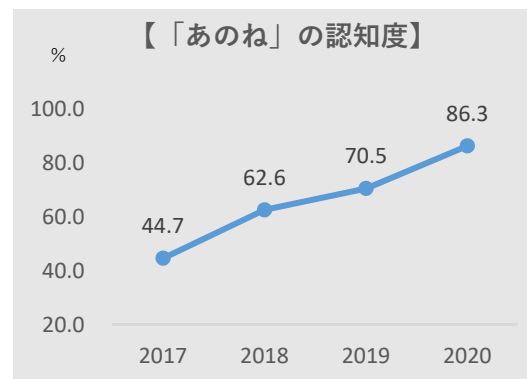
- ・ 2017年度のネウボラ創設から継続して子育て支援の充実に注力
- ・ 子ども医療費の拡充や、放課後児童クラブ受入の拡充など、子育て世帯のニーズに応える取組を実施
- ・ 母子健康手帳交付時をファーストコンタクトとして、ネウボラ相談員との面談を実施
- ・ 不安の高まりやすい妊娠後期面談を促す取組として、来所相談時に絵本や育児用品などをプレゼント
- ・ 保育人材確保事業やスマート保育実施などで多様な保育を実現

「あのね」の相談件数の増加に伴い、相談窓口の認知度とこの地域で子育てしたいと思う親の割合」が向上

支援が必要な家庭への対応強化

- ・ 子ども家庭総合支援拠点設置(2021年度 相談件数1,198件)
- ・ 「あのね」との一体的な運営で妊娠初期から課題のある家庭を支援
- ・ 児童相談所との人事交流や合同研修による専門性の向上
- ・ ひとり親家庭への支援の強化
- ・ 子どもの居場所づくり等を行う民間団体のネットワークづくり，補助
(延べ支援団体数 14団体／延べ見守り対象児童数 1,187人)

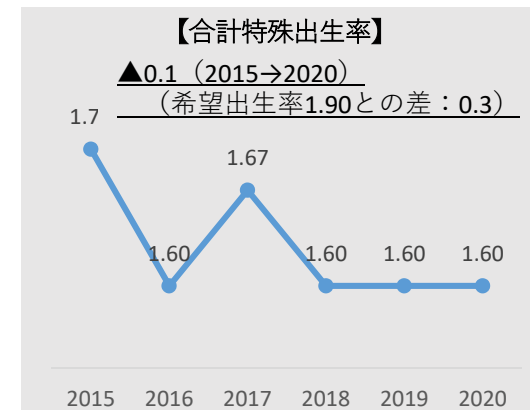
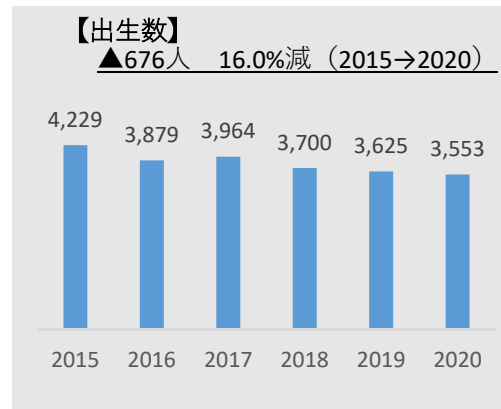
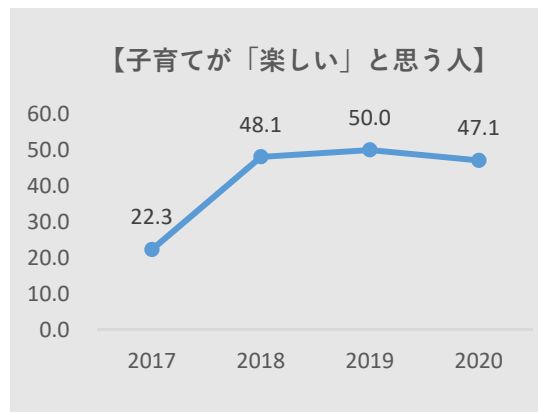
子育てに困難を抱える家庭や子どもを見守り，支援する体制の構築



2-2 取組の成果と課題

- 本市で子育てをしたいと思う親の割合は増加しているが、「子育てが楽しい」と思う人の割合は5割にとどまる
- 5年間で、出生数は676人減少、年少人口(0~14歳)は3,841人減少している
- 合計特殊出生率は横ばい、希望出生率との乖離も解消できていない

有配偶者率の低下や女性人口の減少などにより出生数の減少が続いており、全国的な課題となっている



【あのね相談内容内訳 2021年度】 ※上位5項目

順位	相談内容 (子どもに関すること)	割合 (%)
1	子どもを取り巻く環境問題(保育所(園)の入所や家庭の悩みなど)	29.1%
2	発育・発達(体重増加, 身体発達・言葉の遅れ, 多動など)	24.1%
3	基本的な生活習慣(睡眠, 授乳, 離乳食など)	23.8%
4	養育	9.5%
5	医学的なこと(疾病・予防接種など)	9.4%

専門性が必要な「発育・発達」に関する相談が、上位に位置付いている

3 次期ネウボラ事業計画策定に向けて

5年間の取組の成果と課題，社会状況を踏まえ、子育て世代が求める支援策を広く検討する必要がある

子育てに喜びを感じられる都市＝子育て世代が選ぶ都市

「あのね」の強化

- ・ 専門性の高い相談に対応できるスキルの向上

多様化する 保育ニーズへの対応

- ・ 保育人材の確保
- ・ 待機児童の解消

家族時間を楽しめる 場の創出

- ・ 誰もが安心安全に楽しめる公園遊具の整備

仕事と子育ての両立支援

- ・ 保育環境の整備
- ・ 男性の家事育児参加の促進

参考：2023年度（令和5年度）に実施予定の調査

◆ 福山市子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査

◆ 子どもの生活に関する実態調査
（子どもの貧困に関する実態調査）※広島県と合同で実施

子育て家庭や、子どもをめぐる環境の実態把握を行い、次期計画策定へ